

本学・同短期大学部と洞爺湖町との地域総合交流に関する協定調印

本学・同短期大学部は、洞爺湖町と29日、洞爺湖町役場にて、自然環境保全を目指す「地域総合交流に関する協定」を結びました。

本学では、洞爺湖地域において、2005年に地域環境学科が、2009年には生命環境学科が新入生オリエンテーションを実施、2008年には生命環境学科が環境調査法実習を実施しています。また、今後の研究課題として外来生物ウチダザリガニの効果的な防除手法の開発、洞爺湖中島のエゾシカが生物相に与える影響、洞爺湖の基礎的な水質化学調査等が予定されています。

今回の協定は、環境システム学部生命環境学科吉田剛史准教授を中心にして、洞爺湖における上記のような自然環境保全のためのフィールド調査等の実践的な取組の強化を町側に要望して実現したものです。

調印式においては、長崎良夫洞爺湖町長からは「環境面のみでなく、産業面も含めて大学の持つ専門的知識を地域活性化に繋げたい」。谷山弘行学長からは「洞爺湖サミットを機に自然環境への注目がある。本学学生の貴重なフィールド調査の場として洞爺湖を活用させていただきたい」と述べました。

経過報告後、長崎町長、谷山学長により協定書の調印が行われ、調印式には洞爺湖町の関係者に加えて、本学から5名の教職員とフィールド調査中の学部学生、大学院生約10名が同席しました。